２０２３年 １月　浜松聖書集会のご案内

（ 時間：午前１０時 ～ 正午 ）

○ １月　８日（日）　集会　（アクト研修交流センター３６セミナー室）

司会：　溝口　春江　　感話：武井　めぐみ

聖書講話：マルコによる福音書　１４章１～１４節

「受難への備え、イエス、香油を注がれる」　　水戸　潔

○ １月２２日（日）集会　（アクト研修交流センター３６セミナー室）

司会：岩田　堯　　感話：大手　美千代

聖書講話：イザヤ書　６５章

「わたしはここにいる、ここにいる」　　武井　陽一

○　１月２９（日）集会　（クリエート５１号室）

司会：生江　扶左子　　感話：大屋　智代

聖書講話：イザヤ書３０章１５～１７、３１章1～３節

「日本の食糧危機を考える」　　永井　徹

委ね切る

溝口　正

私は神に「委ね切る」とか、キリストに「絶対信頼する」とかと、たびたび人に語り文章にも書いてきた。また私なりに、すべてを主に委ねて生きている積もりでいた。しかし昨年、長期間にわたり体調を崩して、それが口で言うほど生易しいことではなく、自分の信仰体験の浅薄さを身に染(し)みて実感するに至った。

昼間、何とかして眠りたいと思うのだが、神経の細い私はそれがなかなかできない。眼を閉じて何も考えず、じっと静かに横になっているのだが、いつの間にか、あれこれと考えてしまい容易に眠れないのである。その時、私はまだ本当に神に委ね切っていない自分の姿を発見して情けなくなり涙が頬を流れ落ちた。

長い月日を寝ていると、自分の人生の来(き)し方を振り返る時間が多くなる。恩恵に包まれて順調であった一つ一つの出来事が思い出されて感謝に満たされることも多いが、時に魂に突き刺さる罪の思い出に出会うと、身の置き所のないほどの苦悩にさいなまれる。完全に信仰から離れている自分に出会う瞬間ほど痛ましいことはない。しかもそれが次から次へと攻めるように思い出されて私を苦しめた。しかし不思議であったのは、そのように罪を犯し、不信仰に呑み込まれた私であっても、今なお、然り、福音に出会って「汝の罪ゆるされたり」の主の御言葉をいただいてより五十有余年間、大筋において主より離れたことは無かったということである。今度分かった最大の恩恵は、私自身が主から離れて不信仰の波間に漂(ただよ)ったときでも、主ご自身は決して私の手を離し給わず、しっかりと握りしめていて下さった、ということである。それなくして私は信仰を失い、罪と死の泥沼の中に沈んでしまったであろう。

信仰とは、神の与え給う賜物である。キリストの一方的な恵みである。昨年の病床中にこのことが示されて、私の悲しみの涙は感謝と喜びの涙に変わったのである。

（１９９８年２月『復活』第３７５号）